

日本職業リハビリテーション学会

第39回（愛知）大会 開催要項

テーマ「職業からみたインクルージョン」

会期：2011年8月25日（木）・26日（金）

会場：愛知県立大学 長久手キャンパス

〒480-1198

愛知県愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間 1522 番 3

交通アクセス：「愛・地球博記念公園駅」から徒歩約5分

*名古屋駅(地下鉄東山線:約30分)藤が丘駅(リニモ:約15分)愛・地球博記念公園駅

障害者制度改革推進会議での障害者基本法改正の趣旨・目的として、「個性と人格を認め合うインクルーシブ社会の構築」や「障害概念を社会モデルへ転換、基本的人権を確認」などが示されています。障害者権利条約のキーワードのひとつである「インクルージョン（包摂）」は「エクスクルージョン（排除）」の反意語であれば何となく理解できるような気がします。しかし、まだまだ我々にはなじみのない「インクルージョン」であることにはまちがいありません。そこでこの「インクルージョン」について、職業から考えてみようというのが今回の大会テーマです。大会企画分科会では、なじみのうすい早期精神病や失語症も取り上げます。あまりにも大きなテーマですので、まとまりに欠けてしまうかもしれません。大会が開催される8月の通常国会に障害者基本法の抜本改正の法案が提出されることになっています。今大会が多くの方々に「インクルージョン」について考えるきっかけとなることを願っています。

日本のほぼ真ん中に位置する愛知県での開催です。たくさんの口頭・ポスター発表、自主分科会の申し込みをお待ちしています。また全国から多くの方々の大会への参加をお待ちしています。

第39回大会長 吉川雅博（愛知県立大学）

《開催スケジュール》

月 日	時 刻	内 容	
8月25日 (木)	9:30~10:00	研修基礎講座受付	
	10:00~12:00	研修基礎講座	
	12:00~13:00	大会受付	昼食
	13:00~13:10	開会式	
	13:10~14:20	基調講演 「ソーシャル・インクルージョンと職業リハビリテーションの方向」 放送大学 大曾根 寛 氏	
	14:30~16:30	大会企画分科会 ① 高次脳機能障害者が働き続けるために ② 早期精神病患者への就労支援 ③ 失語症者の「働きたい」を支えるには ④ 就労支援機関と教育機関との連携	
	16:40~17:40	会員総会	
	18:00~20:00	懇親会	
8月26日 (金)	9:30~10:00	受付 *3月版より時間を30分繰り下げました	
	10:00~12:30	口頭発表	ポスター発表 在席責任時間 13:00~14:00
	12:30~14:00	昼食	
	14:00~16:00	シンポジウム 「就労と支援の現場から インクルーシブな社会を考える」	
	16:10~16:30	閉会式 (学会大会奨励賞授与)	

《研修基礎講座のご案内》

大会初日、8月25日(木)の午前中に、学会研修委員会の主催で研修基礎講座が開催されます。講座Aと講座Bのどちらかを選んで、参加申込みをして下さい。研修基礎講座のみの参加費は、学会員は無料、非会員の方は1,500円となります。当日参加も可能ですので、是非ご周知下さい。

＜講座A（基礎編）＞

テーマ：「職リハとは何かー職リハの概念と支援の基本」

講師：朝日 雅也 氏（埼玉県立大学、日本職業リハビリテーション学会長）

就労移行支援事業所や就労支援センター等で新しく就労支援に関わる方、
または経験は積んでいるがもう一度基礎理論をしっかりと学びたい方が主な対象です。

＜講座B（実践編）＞

テーマ：「なぜうまくいかないのかー就労支援と定着支援」

講師：小川 浩 氏（大妻女子大学、日本職業リハビリテーション学会副会長）

ある程度経験を積んでいるが失敗経験もあり、解決策や実践における失敗しないための工夫やコツを知りたい人が主な対象です。

《大会企画内容のご案内》

1. 基調講演

ソーシャル・インクルージョンと職業リハビリテーションの方向

～障害者権利条約と制度改革の議論を踏まえて～

大曾根 寛 氏（放送大学）

障害者権利条約と各国の施策の動向（とくにフランスの政策）との相互作用に関する従来の議論や研究を踏まえて、障がい者制度改革推進会議での検討事項、立法の方向性について論ずる。具体的には、障害者基本法の改正案、障害者総合福祉法案、障害者差別禁止法案、障害者虐待防止法案、その他の基本的な法案が、職業に関連する政策とどのようにかかわっているのかを、人格の固有性（インテグリティ）、人権と基本的自由、平等原則（差別禁止、合理的配慮を含む）、地域で生活する権利、ソーシャルインクルージョン（社会的共生）などの視点から考察する。

基調講演は、それ自体で完結するものではなく、今大会における各企画、2日目のシンポジウムの議論に繋がるような問題提起を行うものとする。2日間の大会を通して、誰も排除しない＝誰にも役割と居場所のある社会＝インクルーシブな社会の実現に向けて、職業リハビリテーションという領域の活動が、どういう役割を果たすべきなのかを、様々な角度から論じていただきたい。

2. シンポジウム

就労と支援の現場から、

インクルーシブな社会について考える

約10年ぶりの愛知開催となる今大会では、この10年間の社会の変化を私たちはどう受けとめて実践に臨んでいるのかを確認したいとの思いを込めて、「インクルージョン」をテーマに掲げた。大会の口火を切る基調講演において、インクルーシブな社会の実現に職業リハビリテーションが果たす役割について様々な角度から問題提起を行う。

では、その役割は、職業リハビリテーションの現場ではどのように実践されているのか。あるいは、その実践はインクルーシブな社会の実現へと向かうものなのか。

インクルーシブな社会の実現には、多様性を認め尊重することが必要だと言われる。多様性（Diversity）という言葉が、生物学から社会科学、教育、文化、芸術、そしてビジネスにおいても重要なキーワードとして登場して久しい。労働分野では「多様な働き方」として、必ずしも正社員・正規雇用のみこだわらない様々な就労形態が模索されている。それらはインクルーシブな社会の礎となり得るものなのだろうか。そもそも、インクルーシブな社会とは、職業リハビリテーションの現場においてはどのように認識されているのだろうか。

大会を締めくくるシンポジウムでは、これらインクルーシブな社会の実現と職業リハビリテーションをめぐる課題について、「多様な働き方」「多様な働く場」を創造してきた実践家に論じていただく。そして、大会参加者からの質問や意見を交えながら、果たして今現在の私たちが取り組む職業リハビリテーションの実践は、インクルーシブな社会の実現に多少なりとも寄与しているのか、あるいはどのような職業リハビリテーションの実践がインクルーシブな社会を実現するのか、等々を参加者全員で考える場としたい。

（大会参加者からの質問や意見は、基調講演終了後から受け付ける予定です。詳細は別途ご案内します。）

司会進行

吉川 雅博 氏（愛知県立大学）

助言者

朝日 雅也 氏（埼玉県立大学）

話題提供者

長友 朗 氏（株式会社クレール 相談役（参天製薬株式会社特例子会社））

吉田 周生 氏（有限会社ヨシダ精工 代表取締役、
就労継続支援 A 型事業所プレジャーワーク株式会社 代表取締役、
熊本県中小企業家同友会 障がい者雇用支援委員会 委員長）

栗原 久 氏（財団法人箕面市障害者事業団 事務局長）

松岡 茂 氏（社会福祉法人ニコニコハウス ニコニコハウス鶴里 施設長）

3. 大会企画分科会

① 高次脳機能障害者が働き続けるために

～生活支援・居場所・余暇支援に焦点を当てて～

高次脳機能障害者が安定した就労を継続していくためには、就労と生活の包括的支援体制が必要であり、その軸は生活支援・居場所・余暇支援の3つではないかと考える。職業生活を支える生活面において、疾病や障害の管理、生活技能のスキルの獲得やストレス対処を含めた日常生活の維持は必要不可欠であるが、就労支援サービスのみではやりきれないのが現状である。安定した就労を継続していくためには、どこで問題をキャッチし、どのようなサポートが必要なのかを考えたい。また、高次脳機能障害者の生活面で出てくる問題や、どのような時に問題が生じるのかを検討し、高次脳機能障害者が働き続けるためにどのようなサービスや支援が必要かを考えたい。

司会進行

中村 俊彦 氏（浜松大学）

助言者

阿部 順子 氏（岐阜医療科学大学）

話題提供者

濱田小夜子 氏（サポートネット広島）

金田 祥史 氏（多機能型事業所ワークだんだん）

繁野 玖美 氏（世田谷区立総合福祉センター）

古谷 香奈 氏（ワークハウス みかんやま）

② 早期精神病患者への就労支援

～精神障害の臨床像の変革にともない私たちも変わる準備をしよう～

本邦でも、精神疾患の早期介入や予防および早期治療を実現し、転帰を改善しようという組織的試みが成されて久しい。今後わが国の実情にあった早期介入・治療システムの構築が進めば、精神疾患ならびに精神障害の臨床イメージは大きく変革する。発症の多くが思春期に源をもつ精神疾患では、障害像の変革は、就労支援場面で精神障害者に会う機会を増やし、その質を変容させる。今後早期精神病患者への就労支援は日常的な課題となるだろう。分科会では、早期精神病患者への新たな試み、展望、就労支援の実態を紹介し、参加者とのディスカッションを通して、新たな臨床像に適した就労援助を考える一助を得たいと思う。

司会進行

山田 純栄 氏（日本福祉大学）

話題提供者

港 美雪 氏（前吉備国際大学）

本間 貴宣 氏（すずかけクリニック）

中村 泰久 氏（日本福祉大学）

③ 失語症者の「働きたい」を支えるには（失語症者の職業生活支援実践）
～ニーズアセスメント・途切れない支援・地域支援ネットワーク～

失語症者は自ら「失語症があるから働けない」とあきらめている方が多いのではないかと。失語症者の第一次支援のキーパーソンであるSTは、社会参加ニーズを十分にキャッチできていないのではないかと。ニーズをキャッチしたとしても、就労支援を担う社会資源を知らずに、適切な社会的サービスに繋ぐことができていないのではないかと。結果として、「働きたい」と思っても、就労にチャレンジすることなく、不本意ながら、安全地帯としての介護保険のデイサービスを利用するに留まっている事例が多いのではないだろうか。

当分科会では、様々な失語症者の働く事例の話題提供を受けて、就労支援の現状と課題を明確にしたい。適切な社会的サービスに繋がる仕組みはどのようなものなのか、地域では今、どのような支援ネットワークが期待されているのかを、明らかにしたい。

司会進行

加藤 朗 氏（名古屋市総合リハビリテーションセンター）

山田 和子 氏（名古屋市総合リハビリテーションセンター）

話題提供者

鈴木 朋子 氏（愛知淑徳大学）

田谷 勝夫 氏（障害者職業総合センター）

飯沼 舞 氏（医療法人社団KNI 北原国際病院）

梅北 健一 氏（NPO 法人ドリーム、職員、障害当事者）

阿字地悠基 氏（NPO 法人ドリーム、職員）

④ 就労支援機関と教育機関との連携
～学校在籍時から「つながる」就労支援～

特別支援学校等に在学している障がい学生を就労支援事業所と連携し、よりスムーズな就労のマッチングと定着支援を実施したい。これまでも特別支援学校に在籍して公的な支援機関に登録し、連携しながら就労へ結びつけるケースはあるが、数に限りがあると思われる。しかし、障害者自立支援法下の就労支援機関などにも在学中から登録することができれば早期から就労へ向けての準備機会が増え、また定着支援もスムーズに移行できる可能性が高いと考えられる。この分科会では、教育機関である「学校」と福祉施設である「就労支援事業所」がどのように連携していけば、より効果的で長く働くことができる環境を創ることができるか参加者の皆様と考えたい。

司会進行

清水 崇志 氏（就労移行支援センターC.O.College）

佐藤 一雄 氏（愛知県立春日台養護学校）

話題提供者

関 高恵 氏（尾張西部就業・生活支援センター「すろーぷ」）

山室 奈津江氏（愛知県立一宮東養護学校）

猪飼 幸喜 氏（株式会社アオキスーパー 人事部長）

4. 自主分科会

① 「ソーシャルファームとは何か ～障害者就労の意味～」

企画者：吉崎 未希子 有限会社 人財教育社

開催趣旨：

障害者取分け精神障害者の就労は、現在どの社会でも解かなければならない重要な課題となっている。障害者と非障害者の共生を協働によって実現することが、最も合理的な解決になるからである。ヨーロッパでは、この課題への取り組みの歴史は、既に30年に至らんとしている。その中で生み出したのがソーシャルファームである。ソーシャルファームとは、障害者が生存し労働していくという人間としての基本的な権利を創り出す社会システムである。この分科会では、(1)ソーシャルファームの制度的実現、(2)ソーシャルファームの事業設立、(3)ソーシャルファームでもたらされる社会的な成果という3つの観点で、障害者就労による社会参加の推進を日本に創り出す事を目指すものである。このために、主にドイツでの法制化、ソーシャルファーム設立と事業運営の実態、そして生み出されている障害者、地域、そして国全体にもたらされている成果の発表を軸としている。それらに就いては、発表者の3年余に亘るドイツでのインテグレーションプロジェクト（統合企業でソーシャルファームをドイツではこの様に命名している）の視察調査研究を基にして構成するものである。この分科会を日本でのソーシャルファーム実現の濫觴としたい。

② 「ジョブマッチングカフェ～長所を活かす方法～」

企画者：中原 さとみ リカバリーキャラバン隊/桜ヶ丘記念病院

開催趣旨：

Individual Placement and Support ; I P Sの発祥の地、アメリカバーモント州を訪れた際に就労支援専門家たちのユニークなミーティングが魅力的だった。そこでは、当事者の興味、能力、好みに焦点を当てた次のステップへのブレインストーミングを行なう。「話がくどい人は借金の取り立てが合うのではないか」発想の転換・弱点の中にこそ強みがあるという理念を実践しているのを目の当たりにした。ストレングスを尊重するI P Sは、統計的にも就職率や定着率が高い。ポジティブ心理学においても、自分の長所が活かされていると感じられる仕事に就いているとき、人は充実感を得られることが指摘されている。当日は、I P Sによる職業プロフィールを紹介し、長所を活かす方法をテーマにワールドカフェの手法を用いたワークショップを行う。どんな人にも適した仕事があるはず、という感覚を持ち帰っていただければと考えている。

③ 「就労移行支援事業における IPS モデルの活用」

企画者：倉知 延章 九州産業大学 国際文化学部

開催趣旨：

重度精神障がい者の就業支援モデルとしての IPS モデルは、科学的根拠のある実践として、米国で多くの成果を上げている。IPS モデルは、ジョブコーチモデルに、本人を主体としたストレングスモデルを組み込んだものといえる。このモデルを就労移行支援事業で実践を試みている事業所からの報告をもとに、わが国の制度に合わせた精神障害者就業支援実践方法の検討を行う。報告を行うパネリストは、池田克之（そらいろ：京都

市)、大島みどり(ビルド:市川市)、本多俊紀(Work&Recovery コンポステラ:札幌市)、田添珠美(ワークス・アントレ:福岡市)の4名であり、さらに会場の参加者も含めて議論を進めていく。

《大会参加申込みのご案内》

1. 参加申し込み方法

大会ホームページから申し込みいただくこととなりますが、参加申し込みの受付は6月から開始の予定です。

2. 大会参加費等

大会参加に伴う諸費用の詳細は、下の表に示すとおりです。なお、大会参加費の入金締め切りは、**8月10日(水)**です。期日までの入金で、事前参加登録の完了となります。

大会参加費	正会員	事前	3,000円	参加費には、発表論文集1冊を含みます。 事前参加登録（前納）は、 8月10日(水) が締め切りです。それ以降は当日参加の金額となりますので、ご了承下さい。
		当日	4,000円	
	非会員	事前	5,000円	
		当日	6,000円	
	学生		2,500円	
懇親会費			3,500円	
弁当代			800円	お茶付きです。初日分、2日分があります。
研修基礎講座			1,500円	正会員は無料です。
事務手数料			500円	

当日受付も承りますが、できるだけ事前に申し込み、及び、入金をお済ませ下さい。大会参加費を初め、諸費用はすべて振り込みで納入して下さい。納入方法については、参加申し込み受付後に、Man to Man Animo 株式会社から連絡します。なお、いったん納入された費用はお返しできません。

3. 懇親会

8月25日(木) 18時から大学キャンパス内の食堂で懇親会を開催いたします。多くの方々の参加をお待ちしています。

4. 昼食

会場周辺には飲食店がありませんが、大学キャンパス内の食堂がご利用いただけます。お弁当を用意しました。1食800円です。ご希望の方は、参加申込書にその旨ご記入ください。
(なお、食堂は工事中のため半分閉鎖しています。席数が限られますのでご注意ください)

《障害のある参加者への支援》

障害のある参加者の方には可能な限りのサポートを行います。参加を計画された時点で大会事務局までご相談ください。

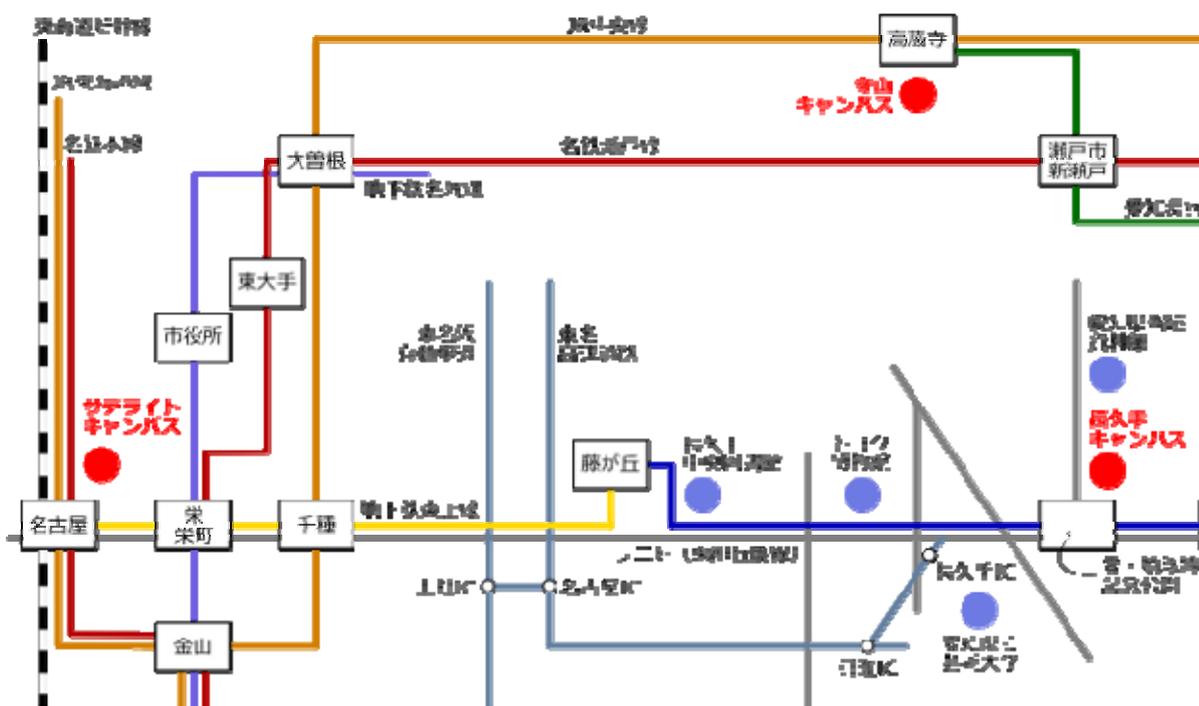
《大会会場案内図》

愛知県立大学 長久手キャンパス

〒480-1198 愛知県愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間 1522 番 3
TEL:0561-64-1111

リニモ「藤が丘」駅から八草行き「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩約5分
リニモ「八草」駅から藤が丘行き「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩約5分

* 駐車場あります(無料)。正門から入り、駐車場案内に沿ってお進み下さい。



《研究・実践発表の募集》 《自主分科会の募集》

募集は終了いたしました。

《諸手続きの締め切り期日および連絡予定》

- ~~2011年5月10日(火)~~ 研究発表予定者の学会入会締め切り
- ~~2011年5月20日(金)~~ 研究発表、自主分科会の申し込み期限
- ~~2011年5月31日(火)~~ 自主分科会の諾否連絡
- 2011年6月30日(木) 研究発表原稿、自主分科会資料登録期限
- 2011年8月10日(水) 事前参加登録(前納)期限

【日本職業リハビリテーション学会第39回愛知大会発表予定演題】

第39回愛知大会では、口頭発表26題、ポスター発表15件、自主分科会3題を予定しています。予定演題を以下に示します。振るってご参加下さい。

※発表者は、筆頭発表者のみを掲載しています。

※演題名は、申込み時点の標題です。演題名の左の番号は発表の順番ではありません。

■口頭発表

○身体障害・高次脳機能障害・その他

1. 「企業と非営利組織等との協業による障害者雇用の取組み～実践事例の聞き取り調査から～」
内木場 雅子 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
2. 「個別型遠隔トレーニングの有効性の検証」
山中 康弘 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
3. 「職業および機能評価票の開発（第一報）」
齊藤 陽子 医療法人社団 KNI 北原国際病院 リハビリテーション科/有限会社ソーシャルケアユニット
4. 「身体障害のある大学生の進路選択—社会認知的進路理論からの検討—」
大石 甲 障害者職業総合センター
5. 「障がい者関連施設における農業ならびに食品加工業の取組みとリスク管理」
菊池 啓子 中部学院大学短期大学部専攻科
6. 「農業分野での障がい者雇用としての岐阜県山県市のWSBグループの取組み」
土田 賢太郎 岐阜大学応用生物科学研究科
7. 「失語症者の復職支援についての一考察」
加藤 朗 名古屋市総合リハビリテーションセンター就労支援課

○精神障害・発達障害

1. 「精神障害者の雇用管理に関する調査の概要について」
相澤 欽一 障害者職業総合センター
2. 「就労者に対する SST の実践と意義～就労継続とスキルアップに向けて」
本多 俊紀 NPO 法人コミュネット楽創 Work&Recovery コンポステラ
3. 「ソーシャルファームの推進 ～障害者の労働権を満たす社会の構築を目指して～」
吉崎 未希子 有限会社 人財教育社
4. 「当事者と支援者の就労に対する認識の比較検討～グループインタビューを用いて」
大川 浩子 NPO 法人コミュネット楽創 北海道文教大学

5. 「障害者を雇用するメリットの質的分類」
飯野 雄治 リカバリーキャラバン隊/稲城市役所
6. 「発達障害者の職場定着支援から見えてきた課題～コミュニケーションに対する欲求について～」
柴田 泰臣 障害者就職サポートセンター ビルド
7. 「一般就労が困難な発達障害のある人への超短時間就労の有効性の検討」
岡 耕平 滋慶医療科学大学院大学

○知的障害

1. 「スマイルケアラズ（えがおの介助士）」
古橋 美枝 就労移行支援事業所 ご縁
2. 「保護雇用に関する提案」
福岡 新司 社会福祉法人足柄緑の会
3. 「岐阜大学農場における障がい者雇用の取り組みとESD教育への可能性」
大場 伸哉 岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター
4. 「岐阜大学農場におけるデュアルシステムとしての特別支援学校生の活動」
矢野 倫子 岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター
5. 「障害福祉サービス事業所等による農業参入形態と地域の農業資源との関係－農業分野における障がい者就労の推進にむけて－」
片山 千栄 農研機構 農村工学研究所 農村基盤研究領域
6. 「特別支援学校現場からみたインクルーシブな社会構築のための課題－就労支援をとおして－」
藤田 弘史 神戸大学人間発達環境学研究科

○種別なし

1. 「韓国における職業リハビリテーションの実態」
韓 昌完 佐賀大学高等教育開発センター
2. 「全国調査から見た近年の特例子会社の現状と課題～障害者権利条約の視点から」
伊藤 修毅 立命館大学大学院
3. 「職業リハビリテーション領域における重要性の高い研究課題の探索」
岩永 可奈子 職業能力開発総合大学校
4. 「ドイツにおける視覚障害者の就業状況と職域開拓の動向について－EU指令の実施と障害者権利条約の批准を背景として－」
指田 忠司 障害者職業総合センター
5. 「中小企業における障害者雇用に関する実態と意識について－各種支援の実態調査から－」
笹川 三枝子 障害者職業総合センター事業主支援部門

6. 「職業リハビリテーション従事者の専門性ー障害者就業・生活支援センター職員への調査からー」
藤井 明日香 広島大学大学院 教育学研究科

■ポスター発表

1. 「障害者の就労支援事業所が抱える課題～家族に関する課題に焦点をあてて～」
藤田 さより 聖隷クリストファー大学
2. 「F E P者への就労支援プロセスの特徴 ～グループインタビュー調査からの考察～」
中村 泰久 日本福祉大学健康科学部
3. 「障害者の職場定着における最近10年の配慮事項について」
嶋田 陽子 障害者職業総合センター
4. 「視覚障害者の離職要因に関する研究ー雇用主と当事者相互におけるニーズの差異に着目してー」
長崎 龍樹 日本福祉大学大学院 医療・福祉マネジメント研究科
5. 「高次脳機能障害者を取り巻く社会資源に対する意識調査」
建木 健 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学科
6. 「大学内の資源を活用した在宅精神障害者のための就労準備講座」
向 文緒 中部大学 生命健康科学部作業療法学科
7. 「主体的な姿勢を引き出す進路支援のあり方」
木村 彰孝 山口県立防府総合支援学校
8. 「働く知的障害者と余暇活用に関する一考察 (1) 企業調査の試み」
渋谷 旭 NPO 法人障害者就業生活支援開発センターGreenWork 2 1
9. 「ステップアップ雇用奨励金制度の活用実態調査について 中間報告(2)」
下條 今日子 障害者職業総合センター
10. 「ステップアップ雇用奨励金制度の活用実態調査について 中間報告(1)」
村山 奈美子 障害者職業総合センター
11. 「就労移行支援事業に関する一考察～事業所の事例を中心に～」
飯田 朋子 社会福祉法人森の会 広域地域ケアセンター バオバブ
12. 「認知に障害のある人に対する相談補助シートの作成 (1) -支援手法に焦点をあてて-」
中村 梨辺果 障害者職業総合センター
13. 「認知に障害のある人に対する相談補助シートの作成 (2) -支援における視点・留意点に焦点をあてて-」
内田 典子 障害者職業総合センター

6月版

14. 「公正性判断と合理的配慮の提供：米国における研究の概観」
若林 功 障害者職業総合センター
15. 「障害児・者にとっての「農」とは何か」
田中 誠 就実大学・就実短期大学

《連絡先》

お問い合わせ、ご連絡等は以下にお願いします。

【日本職業リハビリテーション学会 第39回大会事務局】

〒467-8622 名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

名古屋市総合リハビリテーションセンター就労支援課内

電話:052-835-3692 (直) Fax:052-835-3745 (代)

E m a i l : j s v r 3 9 a i c h i @ y a h o o . c o . j p

大会ホームページ

<http://syokuriha-aichi.animo-web.jp/>